
夢の中

euReka

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の中

【Nコード】

N1323F

【作者名】

eureka

【あらすじ】

真夜中の電話。さっき夢の中で会ったと電話の主は変なことを言っている。主人公は翌日、会社帰りに拳銃を突き付けられる。「電話、覚えてるよな？」

真夜中、電話のベルが狂ったように鳴った。200回ほどベルが鳴ったあと、僕は目をこすりながら電話に出た。

「ついさっき夢の中で会った者だが」と電話の向こうから男の声は言った。「あんた、どうして俺のこと殴ったんだ？ 酷いじゃないか！」

僕は男が何を言いたいのがよく分からなかったが、もう一度同じ言葉を聞き直すのもめんどろうだと思った。

「多分、人違いだね」と僕は言った。「僕は誰も殴ってないし、ここ半年夢は見えていない。失礼」

僕は受話器を置いてベッドにもぐりこんだ。

しかし5分ほどするとまた電話が鳴った。僕は目を閉じたまま受話器を取って耳に当てた。すると今度は女の声が聞こえた。

「さっき夢の中で会った女よ。明日、あなた暇かしら」

僕は一度大きなあくびをした。「悪いけど、君たちのゲームには付き合ってもらえないんだ」と僕は受話器に向かって言った。「せいぜい、いい夢でも見てくれ」

電話を切ると、僕は朝まで眠った。

次の日、僕は目が覚めると仕事へ出かけた。仕事をしながら僕は昨夜のことをふと思い出した。でも仕事が終わる頃になると、僕は電話のことを忘れていた。会社を出ると空に夕やけが見えた。家へ帰ろうと歩きだしたとき、ふいに誰かが僕の腕を掴んだ。

「電話、覚えてるよな？」とその男は僕の腕を掴みながら言った。もう片方の手には拳銃が握られていた。「俺は、あんたがどうしても気に入らないんだ。ちょっと付き合ってもらおうか」

僕は背中に拳銃を突き付けられながら路地裏へ連れて行かれた。

薄暗い路地裏でゴミをあさっている野良犬を見つけると、男は足で

蹴飛ばして追い払った。

「さあ止まるんだ！」と男は僕に言った。「そのまま動くなよ。また、夢で会おうぜ……」

男が黙った瞬間、路地裏に銃声が響いた。男は拳銃を手に持ったまま力なく地面に倒れた。男の背後には、拳銃を構えた女の姿が見えた。

「危なかったわね」と女は笑顔で言った。「早く逃げましょう。見つかるよ厄介だわ」

僕と女は路地裏を出ると、まるで散歩でもするように夕暮れの街を歩いた。

「あなたって勝手よ」と女は僕の隣を歩きながら言った。「夢の中の出来事をすぐに忘れてしまっただもの」

僕は、夢の中で何があったのか女に尋ねた。

すると女は言った。「教えない。知っても意味がないわ。あなたは、忘れないから忘れたの。ただそれだけのことよ……」

end

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1323f/>

夢の中

2010年10月13日04時29分発行